日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育プログラム策定に関する基礎的研究

2017年度国際研究プロジェクト活動報告

Primary Research on the Educational Program for Library and Information Studies on the Basis of the Collaboration between Japan and Thailand

A Report of International Research Project in 2017

小田　光宏
Mitsuhiro ODA

１．2016年度の成果に基づく展開

2017年度の活動計画は，2016年度に実施した「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育の可能性」の成果に基づいて展開することを意図した。この研究の詳しい概要は,『教育人間科学部紀要』９号の記事に示した[1)]。この記事の末尾では，その後取り組むべきこととして，下記の具体的な課題を指摘した。

①受け入れた招聘研究員の日本における活動に対する成果の確認
②共同研究のプロセスともたらした貢献に関する位置付け
③タイ王国（以下，タイと記す）における図書館情報学教育の推進の効果測定

そこで，2017年度の活動を開始するにあたっては，上記の３点に関して，問題点となりそうな面に焦点を合わせて振り返り，どのような展開が可能であるか，また，必要であるかを考察した。

まず①は，2016年度に受け入れた招聘研究員，プライマ・ハイアングラット（Praima Hiangrat）氏の日本国内での研究活動が対象となる。氏の研究活動に対するプロジェクトとしての支援は，情報リテラシーの推進に取り組んでいる大学図書館を紹介し，担当者への聴取調査の機会を設けたことである。その支援そのものは十分であったと考えられるが，聴取調査の結果の一部を確認すると，タイにおけるこのテーマの意義が，日本の担当者に的確に伝え切れていない場合もあることがわかる。氏が設定したテーマは，タイのラジャブハット大学（Rajabhat University）の図書館におけ

る情報リテラシー教育のモデル形成であるが，ラジャブハット大学の位置付けが伝達できていなかったと考えられる。ラジャブハット大学は，教員養成を目的として存在した数十のTeacher's Collegeを基盤に改組・成立した大学の一系統であり，実学的な領域の学部を有するなど，その教育における課題に共通するところが少なくない。したがって，国際協力に基づく図書館情報学教育を検討するには，タイの高等教育における独自の事情について，確認すべきことが多々あると認識した。

こうした基礎的な理解を確実にすることは，②に関する振り返りにおいても，現れている。例えば，2016年度は，スコタイ・タマチラート公開大学（Sukhothai Thammathirat Open University，以下，STOUと記す）教授のチュティマ・サチャナンド（Chutima Sacchannand）氏との共同研究として，日本とタイの図書館情報学教育の促進と協同の可能性に関する意見交換，タイからの留学生を受け入れる余地のある大学の視察，講演会の開催を実施した。こうした活動においても，常に共通認識を形成することが大きな課題となった。すなわち，サチャナンド氏に対して，日本の図書館情報学教育の背景的知識を説明するとともに，タイの図書館情報学教育の状況に関するデータを提示してもらうという場面が多々生じた。

さらに，③に関しては，筆者が中心となって実施した講演会・セミナー等における改善点が，タイの文化的状況や出版事情との関係で見出せた。例えば，読書推進に関するセミナーにおいて取り上げる題材は，その象徴であった。日本においては，児童文学の翻訳書の数は極めて多い。したがって，文学賞を受賞した作品を紹介することに抵抗感はほとんどない。しかし，タイにおいては，そうした作品がタイ語に翻訳されているとは限らず，また，翻訳書が普及しているとは限らない。それゆえ，作品や登場人物・キャラクターを知らない図書館の実務家も少なくない。筆者の苦い経験としては，トーベ・ヤンソンの代表作であるムーミンが登場するシリーズ作品を，ムーミンの画像とともに示したときのことがある。すなわち，「何かのマンガですか？」といった反応が複数の聴衆から返された。

こうした振り返りを総合すると，2017年度においては，タイの図書館情報学教育に関係する背景的な理解を深め，基礎的な文献やデータの収集・確認に力を注ぐ必要があると認識した。

２．2017年度の活動計画

１に記した問題意識に基づき，2017年度は，「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育プログラム策定に関する基礎的研究」を，国際研究プロジェクトのテーマとし，下記の４点からなる活動計画を組み立てた。

(1) 招聘研究員，ナッタワディ・ブーンワッタノパス（Nattawadee Boonwattanopas）氏の受入と日本国内での研究活動に対する支援の準備
(2) タイの図書館情報学教育に関する英語の基礎文献・情報の収集

（3）タイの図書館情報学教育を実施する大学に関する英語の基礎文献・情報の収集
（4）タイの図書館情報学教育の背景理解に資する英語の基礎文献・情報の収集

（1）は，STOUの大学院博士後期課程所属学生で，サチャナンド氏の指導のもとで研究を進めている学位申請候補者（Ph.D candidate）である，プーンワッタノパス氏に対する研究支援である。氏は，タイの学位取得援助プログラムの一つであるRoyal Golden Jubilee Ph.D. Grantに基づき，2017年度末から2018年度にかけて（2018年３月４日から５月31日）まで日本に滞在し，“Implementation Strategies of the National Digital and Information Literacy Policy Framework for Developing Primary School Students in Thailand”をテーマとする研究活動を行うことを予定した。青山学院大学としては，同じ期間，同氏を招聘研究員として受け入れることとした。ただし，氏の実質的な研究活動は，2018年４月以降となることから，2017年度中は，研究活動に対する支援の準備的な活動の期間と位置付けた。

（2）から（4）は，2017年度のプロジェクト活動の中心となる，基礎文献・情報の渉猟である。ただし，渉猟する基礎文献・情報は，英語によるものとした。これは，筆者の言語上の制約という面もあるが，現在のタイでは，学術的な文献・情報を発信するための基本言語が英語となっていることを踏まえたものである。（2）から（4）の区分は，渉猟する基礎文献・情報の対象となる事象によるものである。

３．活動状況

上記の活動計画において，（1）に関しては，氏のテーマに沿って，デジタル情報を含む情報リテラシーの育成に取り組んでいる小学校，ならびに，このテーマを研究課題としている研究者に関する情報を収集した。その上で，氏の行動範囲に配慮して関東圏であること，また，氏の使用言語との関係で英語によるコミュニケーションが期待できる小学校と研究者に絞り，連絡先を紹介した。

なお，上記の活動を進めるにあたり，氏のテーマにおける，National Digital and Information Literacy Policyの意味するところに留意し，氏と電子メールならびに対面で，意見交換を重ねた。その結果，Nationalに関しては，必ずしも日本国政府そのものだけてなく，日本の小学校で実践されている標準的な内容や方法に関するものも対象になることを確認した。また，Digital and Information Literacyは，Digital Information Literacyとは異なり，Digital Literacy とInformation Literacyの複合的な概念であることを確認した。さらに，Policyは，国や地方自治体の政策ばかりではなく，教育委員会や学校における運営上の方針をも含むものであることを確認した。

（2）から（4）に関しては，英語文献を収録対象としている，図書館情報学の代表的な文献データベースや抄録データベースを検索し，書誌データをリスト化するとともに，デジタル化されている文献に関しては，ファイルをダウンロードして，現物収集に努めた。また，サチャナンド氏の協力を得て，タイの図書館情報学教育に関する機関（大学及び諸団体）のリストを入手し，英語のウェ

ブページで得られる情報を収集した。その結果，2017年度末までに，63点の文献と23機関の情報を入手・整理するに至った。

ただし，得られた文献・情報の多くは，比較的新しい事情を扱っていることから，図書館情報学教育及びその背景に関する歴史を確認できる文献・情報の収集に，力点を置く必要性があると認識した。

４．2018年度に向けての課題

上記の活動状況を踏まえ，2018年度には，四つの活動を予定している。第一は，ブーンワッタノパス氏の日本における聴取調査の直接的な支援である。第二は，基礎研究として，タイの図書館情報学教育に関係する英語による基礎文献・情報の収集を，歴史的な視点に焦点を合わせながら，さらに継続して進めることである。第三は，ブーンワッタノパス氏の指導のために来日するサチャナンド氏との共同研究を模索することである。第四は，2016年度に行なった，タイにおける図書館情報学教育推進に貢献する講演会・セミナー等を実践することである。

注

1) 小田光宏「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育の可能性 : 2016年度国際研究プロジェクト活動報告」『青山学院大学教育人間科学部紀要』９号，2018年３月，p.81-86.